

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水 5	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 125教室(LL 教室)	
対象学生(クラス等) Th	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 吉村宗司 / Eメールアドレス: <a href="mailto:yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp">yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp</a> / 研究室: 非常勤講師控室 / オフィスアワー: 授業の前後(16:00 ~ 16:10 / 125 教室)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 <p>授業のねらい: 対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語) 必要最低限の英語(米語) を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。</p> <p>授業方法: まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、LL 機器をフルに駆使して英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。</p> <p>授業到達目標: 本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) <p>授業内容(概要)</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)  第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』 分析結果の報告と対策法について  第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説 / 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)  第4回 [t][d][g]の脱落 / [t][d]のラ行音化 / 連結しない場合の[l] / [h]の脱落  第5回 『同化』を聞き取るパターン (半母音[j]に絡む音変化)  第6回 『同化』を聞き取るパターン ([n]の後続音への影響)  第7回 [r]の発音 / 『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン  第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン / 『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン  第9回 On an Airplane(1)  第10回 On an Airplane(2)  第11回 At an Airport(1)  第12回 At an Airport(2) / VTR 視聴 / ニュースを聞き取る  第13回 Taking a Taxi / VTR 視聴 / 洋楽を聞き取る  第14回 Taking Public Transportation / 総括  第15回 定期試験</p> <p>毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。</p>			
キーワード	音法		
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング 聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)		
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(トレーニングの状況や受講態度 20%)等の総合判定によって評価を行なう。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。		